

RIT/ATA 公益財団法人 結核研究所

外国出生結核患者支援 教育教材

学習する/プロローグ

- 1 各国基礎情報 & 結核情報
- 2 患者理解の視点
- 3 コミュニケーション
- 4 支援技術の向上
- 5 事例演習
- 6 国境をつなぐ結核対策
- 7 eライブラリー

遊んでみる

外国出生結核患者への服薬支援について、患者を多角的な視点から理解する力を身につけ、患者自らが結核療養中の課題を解決できる支援を行えることを目指しています

第1章 各国基礎情報&結核情報

面接前に患者の出身国の情報を確認しよう。なにが必要かな？

新人保健師のカシマです。一緒に学びましょう

6カ国に対応

- フィリピン
- ベトナム
- ミャンマー
- インドネシア
- ネパール
- 中国

第2章 患者理解の視点

1. 病識における課題

日本では結核は昔の病気、高齢者に多いと思っているけど外国生まれの患者さんは、どうなんだろう？

結核の認識はさまざま

風邪と同じ

ケッカク？知らないよ

空気中にたくさんの菌があるけど、たまたま吸い込んで運が悪かった

一回治療をすると二度とならないよ

第2章 患者理解の視点

2. 結核患者の直面する課題

患者さんの立場に近い通訳さん、何を伝えたいのかな

医療通訳者に聞いてみました。「患者さんの困っていることは？」



第2章 患者理解の視点

3. 多文化理解と自文化理解

多文化理解はよく聞くけど、「自文化」って何かしら？結核療養支援にどう関係するのかな？

先入観



第3章 外国人患者とのコミュニケーション

1. 医療通訳者の重要性

ベトナムの患者さん、日本語がよく話せるからわからないところは、通訳ツールを活用すれば大丈夫!



やさしい日本語を使って説明。実際の説明動画を見ましょう。

やさしい日本語は、
むずかしい・
医療通訳者の介入も
必要



第3章 外国人患者とのコミュニケーション

2. 実践! コミュニケーション やさしい日本語 (会話編)

感染と発病の違い、説明できますか?

結核の説明は、初回面接でいつもしているか



第4章 支援のための技術を学ぶ

1. 基本的な患者背景の把握

1. 生活・社会背景

一緒に確認しましょう

2. 結核についての理解・受容・知識

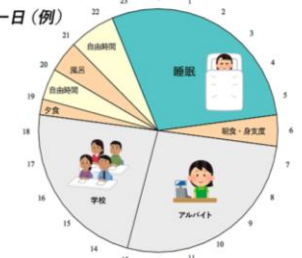
3. 言語・コミュニケーション



1. 生活・社会背景

(5) 生活リズム (日課表の活用)

日課表の活用: 患者さん (学生) の一日 (例)



POINT

- 患者さんと一緒に、24時間表を記入しながら、生活の状況を確認するプロセスが大切です。
- 患者本人が積極的に結核治療を受ける動機づけになります。

第4章 支援のための技術を学ぶ

2. 初回面接の実際 病院編

新人看護師のオオシマです



先輩看護師のスタです



第4章 支援のための技術を学ぶ

2. 初回面接の実際 保健所編



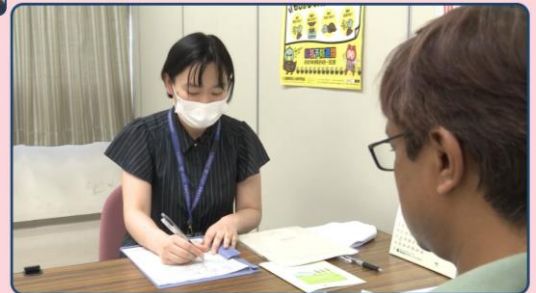
今日はネパールの患者さんの初回面接!



食事で食べられないものか聞いた? 宗教上の問題とか。



初回面接の実際 失敗例からの学び



第4章 支援のための技術を学ぶ

3. 治療継続支援の実際

通常の患者の療養支援を踏まえた上で 外国出生結核患者に大切なこと

それでは具体的な方法を見ましょう



服薬療養支援実際②

(開始後約3カ月から治療完遂まで)



POINT

- 毎回現在の居住地・一時帰国の確認により服薬中断を防ぐ
- 可能な限り予約日を設定 (未受診を早期に把握できるため)
- 薬は飲み間違いを防ぐため、一包化にしてもらう
- 定期的に菌検査結果を把握する。

第5章 事例演習

事例1: 潜在性結核感染症(LTBI)治療中に副作用で自己中断した患者への対応

事例2: 入院拒否患者への対応

事例3: 母国への帰国を希望したが日本で治療終了した患者の対応

演習: 3つの事例で力だめし!

課題1 2週間後の2回目面接時で、副作用のかゆみの訴えあり、本人から服薬したくないとの言葉が聞かれた。何を確認し、どう対応しますか。

